

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

|                    |                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教員氏名               | 後藤 洋                                                                                                                                                                                                                        |
| 主な担当科目             | オーケストレーション,作曲・編曲法Ⅱ_ウインドシンフォニー,作曲・編曲法Ⅱ_作曲・音楽デザイン,吹奏楽概論Ⅰ,吹奏楽概論Ⅱ                                                                                                                                                               |
| 2024年の教育目標・授業に臨む姿勢 | 授業、レッスン共に、学生に自らが考え、目標を定めることを促し、「お膳立て」は極力控えるよう努める。授業の場合は特に、参加している全ての学生が共に問題意識を持ち、考えることができるよう、教員からの一方通行ではなく、教員と学生と一緒に議論する時間も多く設けたい。作曲・編曲法Ⅱやオーケストレーションの授業においては、ピアノ曲の一部を指定された楽器編成で編曲するなど、「学び→実践」を繰り返し、習得した知識をすぐに応用できるようにする。     |
| 2024年の教育に関する自己評価   | 上記のような、「共に考える」授業やレッスンの成果として、回を追うごとに学生が主体的な態度で学習に臨み、自らの意見を述べる機会が増えた。この点においては、教育目標がある程度達成できたと考える。欠席者数のごくわずかである点も、教育の成果の現れと見てよいと考える。ただ、学生の自主性を尊重するあまり、特に実技レッスンにおいて、教員からの指導が具体性を欠くこともあったと感じている。この点は今後の課題としたい。                   |
| 2024年のFD活動に関する自己評価 | FD研修会には、作曲部会の研修会、合同研修会のいずれにも積極的に参加し、多くを学ぶことができた。特に2024年度の年間テーマ「新しい時代の大学人に求められることとは」に含まれるポリティカル・コレクトネスやコンプライアンスについては、それまでその用語のみを知っているにすぎず、意味や内容に関しては認識が曖昧なところが多かったため、非常に有益であり、とりわけ留学生が多い作曲／音楽デザインコースで指導する際に役立てることができたと考えている。 |
| 授業改善のために取り入れた研修内容  | コミュニケーションのあり方について考えさせられることが多く、上記の年間テーマに加え、9月に行われた第2回合同研修会における二俣学部長の「コミュニケーションの技術」も、その考えの深化を後押ししてくれた。                                                                                                                        |

## 2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2629 教員名:後藤 洋

### 1)アンケート結果に対する所見

概ね授業の内容、教育目標、教員の狙いを理解し、それらを好意的に評価した内容である。ただ、「作曲・編曲法 II」は評価が分かれた。これは、吹奏楽の作曲・編曲法を学ぶこの授業の受講者が、吹奏楽への関心の高さ、豊富な経験の有無、将来、吹奏楽の作曲・編曲をこころみる(または仕事とする)可能性の有無について、個人差があるためと考えられる。シラバスの内容に沿った授業展開がなされなかった、との回答も、学生の反応や理解度を確認しながら授業をした結果、たびたび内容の方向転換をこころみたためと思われる。

### 2)要望への対応・改善方策

上記1)の「作曲・編曲法 II」についての結果を鑑み、シラバスをさらに柔軟な、学生にとって理解しやすい内容に修正する必要がある。可能であれば、作曲・編曲の実践を課題等でこころみた場合、その実践結果を実際に演奏して検証できるようにしたいと考えているが、これについては、演奏者の手配など、難しい問題もある。今後弦管打部会や教務の方々と相談を重ねていきたい。

### 3)今後の課題

以上に示したとおり、シラバスの内容を精査すること。また、「作曲・編曲法 II」がより実践的な内容となるよう、教務的な調整を進めること。

以 上